

令和2年度事業報告書（概要）

自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日

近年、核家族化や少子高齢化が急速に進行する中、地域住民の相互のつながりは希薄化し、生活困窮や社会的孤立など、地域の福祉課題は複雑・多様化しています。さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大や相次ぐ自然災害は、私たちの生活に大きな変化をもたらしました。そのような中、社会福祉法人には、誰もが安心して暮らせる包括的な支援体制整備のための、きめ細やかな福祉サービスが強く求められています。

当法人では、従来から取り組んでいる「ひとづくり」や「まちづくり」などの活動を継続することで、福祉サービスの質の向上や地域活性化・地域の福祉力強化を目指して来ました。また、令和2年度は新型コロナウイルス対策のため、法人行事の一部中止やショートステイなどの利用の一部制限などを行いました。

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、地域の方が安心して福祉サービスを利用できるように、事業継続計画（BCP）の整備を進めると共に、感染症対策を講じ事業運営を行って来ました。

1. 公益的な取り組み推進

令和2年度も、生活困窮者支援「おおいた“くらしサポート”事業」（平成27年度～）や災害支援「大分県災害派遣福祉チーム（大分DCAT）」（平成29年度～）などの社会貢献事業を継続して取り組んでまいりました。その他にも、地域移動販売“十日市”（別府市関の江地区スパランド豊海）も、地域の暮らしを支える貢献活動として実施しました。「日出町大神駅のグリーン活動」については、ご利用者の新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、活動を自粛しております。

みのり村地域交流行事については、自粛する行事もありましたが、「みのり村作品展」など一部行事は感染対策を講じ実施し、ご利用者やご家族、地域の方々と交流を図りました。

また令和3年12月創立70周年を迎えるにあたり、記念事業として「（仮称）みのり村アクトホール」の建設工事を開始しました。このアクトホールには非常用電源装置を設置し、ご利用者の創作活動などに取り組む場として、さらに地域も含めた避難場所としての機能も持たせたいと考えています。

2. 福祉サービス力の向上

福祉サービスの質の向上を目的に毎年開催している「みのり村福祉QC研究発表会」は、例年より規模を縮小し、幹部職員のみが参加し開催しました。その他に、ご利用者や職員の介護や支援の負担を和らげる「ノーリフティングケア」は菩提樹を中心に取り組んでいます。

さらに、令和2年度はICT化の取り組みとして、従来の介護記録ソフトから新しい記録ソフトへ更新し、高齢者ケアや請求業務の効率化を図りました。

3. 情報発信、広報活動の取り組み

令和2年度は、厚生労働大臣認定の『くるみん認定』や大分県認定『「おおいた働き方改革」推進優良企業』の表彰を受けることで、法人の取り組みを外部へ発信しました。

令和3年3月には、TOSテレビおおいた放送番組「ほっとはーとOITA」で当法人の働き方改革の取り組みが紹介されました。就活情報誌「BeCAL」や「シティ情報おおいた」、「月刊セーノ」などの情報雑誌にて、法人の事業や仕事内容など様々な情報を積極的に紹介しました。